

唐津での出会い

近藤 朗

一両編成の電車に乗って一時間ほどで、焼き物とくんちの街、唐津に到着しました。目指すは岬の頂に見える唐津城。今年八月に石垣の補修と天守閣の整備を終え、見事な姿を見せています。天守に登ると、玄界灘と山と二本の川で要塞化されていて、昔の繁栄ぶりに思いを馳せることができました。

目的を達成し、満足してタクシーで唐津駅へ向かう車中、ここからが本当の満足を得た時間となりました。

タクシードライバーのMさん。唐津は初めてですか。はい。どちらから来られたましたか。新潟からです。遠くからありがとうございます。観光ですか。いいえ、佐賀での会議のついでに寄ってみました。それはありがとうございます。観光タクシーをしてあげましょう。Mさんは名所を巡り、いわれを語り始めたのでした。

電車の時間があるのにどうしよう。大丈夫ですよ。佐賀行は一本逃すと一時間ありませんからね。間に合わせますから心配いりませんよ。心の動揺が見透かされたようでした。

唐津城は本当は平城なんですよ。天守閣はなかったんだけど、昭和四十六年に観光目的に作られたんですよ。え

〜。この道の名前は大名小路。いい名前ですね。両脇に武家屋敷が並んでいる武士の街なんですよ。正面に見えるのが旧唐津銀行。赤レンガの建物はどこかで見たことないですか。東京駅。そうなんです。この建物は辰野金吾が監修したんですよ。東京駅や日本銀行本店を設計した人です。なるほど。役場の観光課は建物が大事と言うけど、私はいつも喧嘩するんですよ。そこでの生活様式が大切だと思っているんです。窓ガラスは何でできているか分かりますか。手作りガラスですね。そうなんです。ところで手作りガラスはどうやって作るか分かりますか。さあ。丸い筒状で作ってそれを切り拓くんですよ。だから均一じゃないんですよ。そうそう、ここからが町民の街。くんちは大名小路の方へは行かないんですよ。何故だか分かりますか。う〜ん。それは町民の祭りだからですよ。まだまだ続きます。

地元を愛し、地元に誇りを持ち、地元を語る。そのような人と出会えたことは私の宝となりました。新潟小学校でも、全学年での地域教育プログラムによる学びを展開しています。子どもたちの未来に大きな期待が膨らみます。